

## ドイツ学術情報 (2013 年 7 月～9 月)

### < 目 次 >

- 1 ピックアップニュース …p 1
  - ① 「世界に開かれた学術 2013」報告書を発行
  - ② DFG「研究活動の不正行為への対応についての提言」改訂版を公表
  
- 2 その他のニュース …p 2
  - ① ドイツ学術審議会が学術制度の展望に関する提言書を提出
  - ② 「ドイツ連邦エネルギー研究報告」を発表
  - ③ 連邦外務省が示した予算削減案に DAAD 会員総会は反対を決議
  - ④ 連邦経済協力開発省と DAAD は開発途上国の開発のための大学教育の重要性を確認
  - ⑤ ドイツ人の大学卒業(予定)者の 3 人に 1 人が在学中に外国で短期留学を経験
  - ⑥ フンボルト財団創立 60 周年を記念して同窓会誌“Humboldt Kosmos”を出版
  - ⑦ ドイツ南西部の大学は同窓会加入を促進

### 1 ピックアップニュース

#### ① 「世界に開かれた学術 2013」報告書を発行

ドイツ学術交流会(DAAD)と大学情報システム社大学研究所(HIS-HF)の共著による年次報告書、「世界に開かれた学術 2013」が発行された。この報告書はこれまで毎年刊行されており、今年で 13 年目となる。学生の海外留学、研究者による国際研究交流など、国際流動性に関する最新の動向や数値データを、図表を豊富に活用して記載している。

今年は特に、ボローニャプロセスの一環として関心の高い、ドイツの学生の国際流動性に重点を置いた内容となっている。また、単にデータを掲載するだけでなく、主要な潮流・傾向を浮き彫りにしている。ドイツ語と英語で記載されている。

報告書の PDF ファイルは次の URL から入手が可能。

[http://www.wissenschaftweltoffen.de/publikation/wiwe\\_2013\\_verlinkt.pdf](http://www.wissenschaftweltoffen.de/publikation/wiwe_2013_verlinkt.pdf)

#### ② DFG「研究活動の不正行為への対応についての提言」改訂版

2013 年 7 月 4 日、ドイツ研究振興協会(DFG)はベルリンで開催された DFG 年次総会の記者会見において、「研究活動の不正行為への対応についての提言(recommendations on

safeguarding good scientific practice)」の改定版を提示した。既存の提言に対し、主に次の 4 点が改定・追加された。

- (1)学術後継者/若手研究者の指導
- (2)内部告発等の取り扱い
- (3)オンブズマン制度の強化
- (4)大学内・外における調査方法の強化

[http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2013/pressemitteilung\\_nr\\_27/index.html](http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2013/pressemitteilung_nr_27/index.html)

## 2 その他のニュース

### ① ドイツ学術審議会は学術制度の展望に関する提言書を提出

ドイツ学術審議会は、エクセレンス・イニシアティブや高等教育協定、研究とイノベーションのための協定など、期限が迫る一連の取り組みの再開に向けた対策について、審議会として合意した内容を提言書に盛り込んだ。提言書は、研究者養成の支援に重点を置いた内容となっている。また同審議会は、大学及び大学以外の研究機関の間の連携強化に向けた支援施策の拡充、および大学と研究機関がより戦略的な活動が行えるような自治能力の強化を提言している。

<http://www.bmbf.de/press/3490.php>

### ② 「ドイツ連邦エネルギー研究報告」を発表

2013 年 8 月にドイツ連邦政府が発表した「ドイツ連邦エネルギー研究報告」によると、政府のエネルギー研究に対する支出は年々増加し、2012 年には 7 億ユーロに達した。なかでも再生可能エネルギー研究に対する支出が最大の割合を占め、次に支出割合が高いのはエネルギー効率に関する研究である。

ドイツ科学・イノベーションフォーラム東京(日本語)

<http://www.dwih-tokyo.jp/ja/home/%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9/%E8%A8%98%E4%BA%8B/article/2013/09/04/%E3%83%89%E3%82%A4%E3%83%84%E9%80%A3%E9%82%A6%E6%94%BF%E5%BA%9C7%E5%84%84%E3%83%A6%E3%83%BC%E3%83%AD%E8%B6%85%E3%82%92%E3%82%A8%E3%83%8D%E3%83%AB%E3%82%AE%E3%83%BC%E7%A0%94%E7%A9%B6%E3%81%AB%E6%94%AF%E5%87%BA2012%E5%B9%B4/>

ドイツ連邦エネルギー研究報告(ドイツ語)

<http://www.bmwi.de/BMWi/Redaktion/PDF/Publikationen/bundesbericht-energie-forschung-2013,property=pdf,bereich=bmwi2012,sprache=de,rwb=true.pdf> ドイツ語

③ ドイツ人の大学卒業(予定)者の 3 人に 1 人が在学中に外国で短期留学を経験

DAAD と大学情報システム社大学研究所(HIS-HF) の共著による年次報告書「世界に開かれた学術 2013」によると、2010 年に約 127,000 人のドイツ人学生が外国の大学で学業を修めるために留学した。この数は 10 年前の二倍以上である。また、ドイツの大学で学ぶ外国人留学生は 2012 年に 26 万 5 千人を超え、ドイツ国内の全学生の 10%となった。

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2013/24208.de.html>

報告書の PDF ファイルは次の URL から入手可能

<http://www.wissenschaft-welt offen.de/> (ドイツ語と英語)

④ 連邦外務省(AA)が示した予算削減に DAAD 会員総会は反対を決議

連邦外務省告示によると、ドイツ学術交流会(DAAD)の外国人留学生への奨学金事業費は、2014 年予算案では 2013 年予算の 3分の1にまで削減される。この予算削減により「DAAD 戦略 2020」の継続的な実行が困難になる。そのため DAAD は、連邦政府やドイツ連邦議会に奨学金事業費の削減を撤回し、増額するよう訴えている。

1)General Anzeiger, 26 June 2013

2)DAAD

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2013/24101.de.html>

3)DAAD 決議文

[https://be.daad.de/imperia/md/content/presse/2013-06-25\\_resolution\\_mitglieder\\_versammlung.pdf](https://be.daad.de/imperia/md/content/presse/2013-06-25_resolution_mitglieder_versammlung.pdf)

⑤ 連邦経済協力開発省と DAAD は開発途上国の開発のための大学教育の重要性を確認

2013 年 6 月 18 日ハイデルベルク大学で行われた「Change Agent - 変化の様相」会議において、ディルク・ニーベルドイツ連邦経済協力開発省(BMZ)大臣とマルグレート・ヴィンターマンテル DAAD 会長は、開発途上国・新興工業国における大学教育および学術の支援を目指した共同の教育プログラムの成果を発表した。さらに、DAAD は開発協力のパートナーとしてその戦略を紹介した。

DAAD

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2013/24065.de.html>

⑥ フンボルト財団創立 60 周年を記念して同窓会誌“Humboldt Kosmos“を出版

フンボルト財団は 1953 年に設立され、今年 2013 年に創立 60 周年を迎えた。60 年の歴史の概要と記念インタビュー記事を、フンボルト財団同窓会誌“Humboldt Kosmos“に掲載している。

<http://www.humboldt-foundation.de/web/press-release-2013-19.html>

#### ⑦ ドイツ南西部の大学は同窓会加入を促進

ドイツ通信が実施したアンケート調査によれば、ドイツ南西部にある大学の多くは、卒業生の母校に対する連帯感の欠如に悩んでいることが明らかになった。

フリードリクスハーフェンにあるツェッペリン大学の同窓会事務所の担当者は、多くの大学で、卒業生は母校を「知性のふるさと」とは感じていないと語った。チュービンゲン大学連盟のフーベルト・ヴィケルト会長も同様に、卒業生の大学に対する連帯感の欠如を嘆いている。

コンスタンツ大学では、在学学生数は 1 万 1500 人であるが、同窓会員は 2500 人程度で多くはない。広報担当者は、同窓会の会員数が少ないのは、ドイツではアメリカ合衆国のような同窓会組織の伝統がなかったからだと言う。「同窓会の企画運営はこれまで、ほとんどの場合ボランティアが担っていたが、大学による職業化(Professionalisierung)が徐々に進んでいる。同窓会という組織の伝統ができあがるまでには時間がかかる。」

それでも近年、同窓会活動が活発化する大学もある。フライブルク大学は、1996 年に大規模な同窓生活動を展開したドイツ最初の大学である。卒業生のために学部を超えた全学組織の同窓会を設立し、今では 2000 人の会員がいる。フライブルク大学の同窓会の支部は世界中で 17 を数え、現在約 2 万 4000 人の正会員がいる。同大学のルドルフ・ベルナー・ドライエル同窓会長は、大学間の競争が激化していくなかで、卒業生は大学の評判を高め、大学の良さを代弁してくれる重要な存在であると述べる。

チュービンゲン大学の卒業生は、2 万 6000 人の在学学生が所属する大学に、奨学金などの資金援助を行うことを前向きに考えている。ハイデルベルク大学では、外国人卒業生の同窓会員が多い。同大学には約 1 万人の同窓生が登録されているが、その中でドイツ人はごくわずかである。

カールスルーエ工科大学(KIT)は 2013 年以降、卒業生全員を自動的に同窓生ネットワークに登録している。国際同窓会支部が 18 あり、約 2 万人の会員が加入している。同窓生のネットワークは、奨学金のための資金も拠出している。

dpa(ドイツ通信)-Dossier Bildung Forschung Nr.41/2013 07 Oct 2013



ぼんぼん時計第 41 号

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office

Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)

Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)

Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777

[www.jsps-bonn.de](http://www.jsps-bonn.de)